

作品介绍

『星の国から孫ふたり～「自閉症」児の贈りもの～』 劇映画 1時間35分

(社)企業メセナ協議会認定 助成：文化芸術振興費補助金 文部科学省選定
厚生労働省社会保障審議会推薦 児童福祉文化財認定

この映画は、自閉症の孫たちを“星の国からの王子様、お姫様”として、ユーモア溢れる愛情一杯のかかわり方を書かれた門野晴子さんの原作を、槇坪多鶴子監督が映画化しました。この映画を通じ自閉症に対する理解が深まり、自閉症の人々がその人らしく暮せるやさしい社会になるようにとの思いが込められています。

監督 槇坪多鶴子



自立と共生をテーマに7作品を製作・監督
代表作 『老親ろうしん』『母のいる場所』

人は地域の中で、様々な人とふれ合い、支えあえる環境があれば、障害があるなしに関係なく、“その人らしく生きること、成長しつづけることが、夢ではない”と信じています。

原作 門野晴子

著書『星の国から孫ふたり』パークレーで育つ自閉症児
『ギフトッドチャイルド～「自閉症」児からの贈りもの～』

重い障がい生きる槇坪監督が、拙著の「星の国から孫ふたり」を映画化するのがとてもうれしい。いわゆる障がいものには絶対ならない監督の人間観が、「面白くて可愛い不思議な生きもの」に映像の息吹を与える楽しみ。実際の私の孫たちは米・パークレー市に住む日米ミックスの異星人だが、映画では日本人に置き替えたことでよりリアリティを帯びた。不思議ないのちがありのままの個性としてこの国に受容される日まで、私も監督もはたして生きていられるや否や？



上野楓恋



(右から)米倉育加年 阿知波悟美



馬淵晴子

ものがたり

作家の太田弓子(馬淵晴子)は、パークレーから帰国した娘の陽子(加藤忍)、その夫の敏夫(比留間由哲)、3歳になる孫のかおると久しぶりに再会した。だが、かおるは、まだおむつも取れず、「プーラベン……デュワイン！」とまるで宇宙語のような言葉を発し、医者に診てもらおうと「自閉症の疑いがある」との診断。仕事人間の夫は、「子育てに問題があるのでは」と陽子を責める……。

一方、弓子は「自閉症って不思議がいっぱい」と、前向きに日々のかおるの成長を見守る。そこに、パークレーから、発達障害の専門家・村井ひとみ(乾貴美子)が訪れ、「アメリカでの積極的な自閉症(オーティズム)への早期発見、早期療育の取り組みは人々が勝ち取ってきた」と語る。弓子の息子・拓也(ミョンジュ)は、ひとみとスカイプで交信しながら発達障害の専門家になる勉強を始める。そんな時、妹のらんも自閉症だと認定されてしまう。再びゆれる家族……。

らんは、幼稚園に、かおるは小学校の特別支援学級に入学する。かおるはそこで母をなくし心を閉ざしたマリアと出会う。「自分本位と言われている自閉症のかおるが、マリアを想って泣いた！」かおるの初恋だと喜ぶ陽子達。「みんなに、もっと、かおるとらんのこと、自閉症について知ってもらおう」と弓子達は地域の人たちへ支援の輪を広げるために街へ出る。



小野貴琉

比留間由哲



紺野美紗子

加藤忍



小林桂樹



乾貴美子

ミョンジュ

制作：「星の国から孫ふたり」製作委員会 企画制作：パオ(有) www.pao-jp.com

〒156-0044 東京都世田谷区赤堤2-43-13-531

TEL 03(3327)3150 FAX 03(5376)8462

成田空港で行われた映画の撮影に、我孫子市を中心に東葛地区在住の54名の皆様がボランティアでエキストラ出演をされています。